

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107 - 82	高等学校	公民科	政治・経済	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	政経 002-901	政治・経済		

1. 編修の基本方針

「社会とつながる、未来へつながる」 新しい「政治・経済」教科書

(1) 理解に「つながる」：思考・判断の基盤となる「確かな知識」を育む

- ・ わかりやすい本文と豊富な注により、基礎・基本を確実に理解することができます。
- ・ 「レクチャー」のコーナーとデジタルコンテンツで、生徒のつまづきを解消します。
- ・ 各章の冒頭で「公共」の学習内容との関連を示し、「公共」を踏まえた学習ができます。

(2) 思考が「つながる」：問いと資料で「思考・判断・表現する力」を育て、対話的な学びへ

- ・ グラフなどの資料を約 650 点掲載し、本文と資料を関連づけた学習が可能です。
- ・ 資料活用を促す②の問いで、資料読解の技能や考察力を伸ばすことができます。
- ・ 対話的な学びを促す「トピック」のコーナーと①の問いで、思考・判断・表現する力を深めます。

(3) 探究に「つながる」：自律的な学習に必要な「自ら課題を立て探究する力」を育てる

- ・ 各編 1、2 章では、「節の課題」と「項の課題」で学習の見通しを立て、「節のまとめの活動」で振り返る「問いを活かした単元構成」で、課題追究的な学習ができます。
- ・ 「諸課題の探究」（各編 3 章）では、探究学習の流れを「探究課題の設定→つかむ→考える→まとめる・参加する」の 4 段階で示し、探究の流れをより意識して学習できます。さらに、テーマごとに四つの「視点」を明示し、より深い考察を促します。

(4) 将来に「つながる」：さまざまな“18 歳”に役立つ内容を提示






- ・ 特設ページ「18 歳からの社会参加」では、成年年齢や選挙、金融、消費者などについて扱い、「18 歳成年」や主権者教育を踏まえた指導に活用できます。さらに、労働、社会保障、外国人との共生などについて扱い、実生活に直結した学習を行うことができます。
- ・ 最新の社会情勢を反映し、現代の社会に対する理解や考察を深めることができます。

(5) Web に「つながる」：端末を活用して学びを広げる「QR コンテンツ」を用意

- ・ つまづきやすい事項を解説するスライドや、興味・関心を高める映像、大学入学共通テスト形式の「思考問題」などのデジタルコンテンツを用意し、生徒が自学自習で学習を深め、広げていくことができます。
- ・ デジタルワークシートや法令集など、授業で活用できるコンテンツも用意しています。

2. 対照表

■教科書全体に共通する要素

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
トピック 	・ 現代的な諸課題を論題形式で取り上げて考察のポイントをわかりやすく解説し、関連する資料と、対話的な活動を含むの問いをあわせて提示することで、思考・判断・表現する力を総合的に育てることができるようにした。(第1号・第2号)	23、45、55、81、87 ページなど、全体で 14 箇所
レクチャー 	・ 需要曲線と供給曲線、物価変動の影響、金利変化の影響、国際収支表など、生徒がつまづきやすいポイントについて、リンク先の「QR コンテンツ」も含めてわかりやすく解説することで、無理なく確実に理解できるようにした。(第1号)	65、75、101、102、107 ページなど、全体で 19 箇所
コラム 	・ 本文と関連する話題や、本文を深める内容などを取り上げることで、興味・関心をもちながら学習に取り組むことができるようにした。(第1号)	9、22、33、35、36 ページなど、全体で 27 箇所
判例 	・ 本文の内容に関連する判例を取り上げ、わかりやすく解説することで、判例に親しむとともに、本文の内容に対する理解を深めることができるようにした。(第1号)	34、36、37、39、40 ページなど、全体で 13 箇所
🔍マーク	・ グラフや地図、表、写真などの資料に付記し、それらの読み取りや分析のポイントを示したり、複数の資料に関連づけた読み取りを促したりして、資料読解の技能を確実に育てることができるようにした。(第1号・第2号)	8、10、11、12、13 ページなど、全体で 169 箇所
❗マーク	・ すべての「トピック」に付記するとともに、側注欄にも適宜配置し、考察したり、話し合ったりする活動を紹介することで、思考・判断・表現する力を育てることができるようにした。(第1号・第2号)	23、32、37、39、45 ページなど、全体で 32 箇所
二次元コード/ 「QR ○○」アイコン 	・ 項目の冒頭などに掲載した二次元コードなどを通じて「QR コンテンツ」(インターネット上のデジタルコンテンツ)にアクセスできるようにすることで、生徒が自学自習しやすいように配慮した。特に「レクチャー」のコーナーにはよりわかりやすく解説するスライドやクイズを、「18 歳からの社会参加」にはさらに興味・関心を高める追加資料を用意した。また、「QR コンテンツ」が教科書の掲載内容と深く関連づいている箇所については、適宜「QR ○○」アイコンを配置し、よりいっそう「QR コンテンツ」を活用して学習を深めやすくなるようにした。(第1号・第2号・第3号)	8、12、17、18、21 ページなど、全体で 58 箇所(二次元コード) / 13、14、17、20、29 ページなど、全体で 108 箇所(アイコン)
18 歳からの社会参加 	・ 成年になり選挙権を得る年齢である「18 歳」にスポットライトをあて、「18 歳」になったら気をつけるべき点をわかりやすく解説することで、「政治・経済」の学習を実生活へとつなげることができるようにした。また、それぞれ追加の資料を「QR コンテンツ」として用意した。(第2号・第3号)	16～17、82～83、116～117、142～143、150～151、158～159、240～241 ページ
章の導入	・ 各章に、導入のページを見開き 2 ページずつ設け、学習に関連する写真を大きく掲載し、興味・関心を高めることができるようにした。また、各編 1、2 章の導入のページでは「公共」の学習内容との関連を模式図で示し、「公共」を踏まえて学習できるようにした。(第1号)	6～7、84～85、160～161、176～177、208～209、242～243 ページ
節の課題	・ 各編 1、2 章では、各節の冒頭に「節の課題」を設け、節ごとの学習のめあてが明確になるようにするとともに、見通しをもって学習することができるようにした。(第1号)	8、29、52、70、86 ページなど、全体で 13 箇所
節のまとめの活動	・ 各編 1、2 章では、各節の終末部に「節のまとめの活動」を設け、節ごとの学習や「節の課題」を振り返り、まとめの活動を行うことで、学習をより深められるようにした。(第1号)	28、51、69、81、93 ページなど、全体で 13 箇所
平易な文章	・ 政治・経済のしくみを確実に理解し、その課題について幅広い視野から考察できるように、文章を平易に記述した。(第1号)	全体
豊富な資料	・ グラフや地図、表、写真などの資料を約 650 点掲載し、資料と本文を関連づけることで確実に理解できるようにした。(第1号)	全体

■単元ごとの内容

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>第1編1章 現代日本の政治</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会契約説の比較」の表を掲載し、ホブズ、ロック、ルソーの社会契約説の違いをとらえやすくした。また、原典資料として『法の精神』『マグナ・カルタ』『権利章典』『アメリカ独立宣言』『人および市民の権利宣言』『ワイマール憲法』などを掲載し、「法の支配」や基本的人権についての理解を深めることができるようにした。(第1号) ・「法と民主政治」の項を設け、社会生活と法との関わりについて私法を中心にわかりやすく記述することで、法的な見方・考え方を身につけることができるようにした。(第1号) ・特設ページ「『18歳になる』ということ」を設け、日本では18歳になると成年となることについて取り上げ、成年を迎えるにあたって必要とされることに気づくことができるようにした。(第3号) ・コラム「古代ギリシャの民主政治」や「ファシズムと全体主義」、トピック「これからの民主主義はどうあるべきか」を掲載し、民主主義のあり方について考察を深めることができるようにした。(第2号) ・コラム「緊急事態条項」や「選択的夫婦別姓」「外国人の人権」「日本の刑事司法と冤罪」「性の多様性の尊重」を掲載し、現在の日本が抱える人権に関する課題について理解を深めることができるようにした。(第2号) ・トピック「ネット社会における人権保障の課題にどう対応するか」やコラム「インターネットと政治」を取り上げ、インターネットが人権保障や政治に与える影響について多面的・多角的に考察できるようにした。(第2号) ・トピック「議会における男女平等をどう実現するか」を設け、日本の政治における男女平等のあり方について考察を深められるようにした。(第3号) ・三権分立や裁判員制度、国政選挙のしくみなど学習のポイントとなる箇所に「QRコンテンツ」(デジタルコンテンツ)を用意し、理解しやすくした。 ・レクチャー「日本の国政選挙のしくみ」やトピック「日本の『政治の座標軸』はどうなっているか」を掲載し、日本の政治や選挙についての理解を深めることができるようにした。さらに、特設ページ「選挙権の行使と政治参加」を設け、投票のしかたや選挙運動の注意点などについて「QRコンテンツ」(デジタルコンテンツ)も用いてわかりやすく解説し、主権者教育に活用できるようにした。(第3号) 	<p>10、11、13、18、19 ページ</p> <p>12～15 ページ</p> <p>16～17 ページ</p> <p>9、22、23 ページ</p> <p>33、35、36、38、43 ページ</p> <p>45、80 ページ</p> <p>55 ページ</p> <p>52、65、75 ページ</p> <p>75、81、82～83 ページ</p>
<p>第1編2章 現代日本の経済</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な経済思想について、模式図「資本主義と社会主義の歩み」と表「経済思想の歩み」を掲載し、時系列の変化と各思想の比較を通じて理解できるようにした。(第1号) ・コラム「政策と合理的意思決定」を設けて行動経済学を取り上げ、経済的な見方・考え方を身近な生活に活用することの意義に気づくことができるようにした。(第1号) ・トピック「『資本』とは何か」や「これからの企業はどうあるべきか」「格差を解消するにはどうすればよいか」を設け、現在の日本経済の課題について考察を深めることができるようにした。(第1号) ・需要曲線と供給曲線、景気変動、物価変動の影響、金利変化の影響、信用創造、少子高齢化と人口減少といった、生徒が苦手としがちな内容について、「レクチャー」を設け、「QRコンテンツ」(デジタルコンテンツ)も活用しながら確実に理解できるようにした。(第1号) ・近年の日本の金融政策についての扱いを充実させるとともに、特設ページ「ライフプランと金融」を設け、自立した経済生活を営んでいくために必要な金融リテラシーを身につけることができるように工夫した。(第2号) ・「公害と環境保全」の項では、明治期から高度経済成長期の公害問題から、海洋プラスチックごみやPFASなどの現代的な課題まで幅広く記述し、環境の保全に寄与する態度を養うことができるようにした。(第4号) ・特設ページ「消費者市民社会の実現に向けて」を設け、自立した消費者として必要な知識や考え方を身につけることができるようにした。(第3号) ・特設ページ「『働く』ことを考える」「ライフステージと社会保障」を設け、学習した内容を実生活と結びつけてとらえられるようにした。(第2号) 	<p>90、91 ページ</p> <p>93 ページ</p> <p>87、99、131 ページ</p> <p>101、102、107、111、112、130 ページ</p> <p>114～115、116～117 ページ</p> <p>132～134 ページ</p> <p>142～143 ページ</p> <p>150～151、158～159 ページ</p>
<p>第1編3章 現代日本の諸課題の探究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な働き方・生き方の実現」のテーマでは労働におけるジェンダー平等の例を取り上げ、男女平等を志向する態度を身につけることができるようにした。(第3号) ・「日本の財政の健全化」のテーマを設け、日本の福祉国家としてのあり方について主権者、納税者の立場から考察できるようにした。(第3号) ・「防災と安全・安心な社会の実現」のテーマを設け、身近な地域における防災・減災のあり方について、地域社会の一員として主体的に考察できるようにした。(第3号) 	<p>166～167 ページ</p> <p>170～171 ページ</p> <p>174～175 ページ</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第2編1章 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷戦期の分断国家や、冷戦後の旧ソ連・欧米の状況、「アラブの春」の広がりなどを示す多彩な地図を豊富に掲載し、地理的な位置や分布を踏まえて学習できるようにした。(第1号) ・ 「冷戦後の国際関係と日本」の項を設け、最新の国際社会の動向をわかりやすく解説した。特に中国についてはコラム「中国の台頭」を設け、中国台頭後の国際関係のあり方について考察できるようにした。(第1号) ・ 「地域主義の動き」の項を設け、EUをはじめとする地域主義の動きを国際政治の側面からも理解できるようにした。(第1号) ・ 章全体を通じて、国際社会と日本との関わりについてたびたび言及することで、国際的な視点から日本のあり方をとらえることができるように工夫した。特に「国際社会における日本の役割」の項では、トピック「日本のODAはどうあるべきか」を設け、国際社会における日本の役割について考察を深めることができるようにした。(第5号) 	186、187、190、192、195 ページ など 190～193 ページ 194～196 ページ 204～207 ページ
第2編2章 現代の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較生産費説、外国為替、円高と円安、国際収支表といった、生徒が苦手としがちな内容について、「レクチャー」を設け、「QR コンテンツ」(デジタルコンテンツ)も活用しながら確実に理解できるようにした。また、為替レートの変動要因や国際金融のトリレンマについてもデジタルコンテンツを用意した。(第1号) ・ 「世界経済のグローバル化と情報化」の項を設け、経済のグローバル化とともに急速に進む情報化・デジタル化について扱い、プラットフォームの経済活動やアテンション・エコノミーの拡大など、現代的な課題について理解し、考察できるようにした。(第1号) ・ 「地球環境問題」と「資源・エネルギー問題」の項を分けて扱い、内容を充実させるとともに、トピック「日本のエネルギー供給はどうあるべきか」を設けて、環境保護に向けた国際協力や日本のエネルギーのあり方について考察を深めることができるようにした。(第4号) ・ 「人口・貧困・感染症」の項を設け、人口問題や貧困、移民、感染症などの問題について、相互に関連づけながら考察できるようにした。(第1号) ・ 持続可能な社会の形成について、フェアトレード、マイクロファイナンスなどのさまざまな取り組みを紹介するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)についての「レクチャー」を設け、持続可能な社会の形成に主体的に参加する態度を養うことができるようにした。(第3号・第4号) ・ コラム「『ポスト・グローバル化』」を設け、現代の国際社会の課題を総括的に振り返るとともに、今後のあり方について考察を深めることができるようにした。(第1号) ・ 特設ページ「『国際社会』とかかわる」を設け、身近に利用する店舗や商品、高校入試などのテーマから国際化について取り扱うことで、実生活と国際社会とのつながりをとらえることができるようにした。(第1号) 	210、211、212、213、214、226 ページ 224～227 ページ 228～230、231～233 ページ 234～238 ページ 237～238 ページ 239 ページ 240～241 ページ
第2編3章 国際社会の諸課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「グローバル化にともなう社会変容」のテーマを設け、日本における在留外国人の増加と多文化共生の例を取り上げることで、異なる文化を受け容れ「他者」と共生していく態度を養うことができるようにした。(第2号) ・ 「イノベーションの促進と成長市場」のテーマを設け、人工知能(AI)の例を通じて、情報化・デジタル化が経済や社会に及ぼす影響について多面的・多角的に考察できるようにした。(第1号) ・ 「民族問題と紛争の解決」のテーマでは、パレスチナ問題を例にあげ、異なる宗教・民族の共生について考察できるようにした。(第2号) ・ 「持続可能な社会の実現」のテーマを設け、持続可能な社会の形成に向けて自らにできることを考えることを通じて、よりよい社会の形成に参加する態度を養うことができるようにした。(第3号・第4号) 	244～245 ページ 250～251 ページ 252～253 ページ 254～255 ページ
巻頭・巻末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭に「はじめに」として「『公共』から『政治・経済』へ」を掲載し、「公共」の学習のポイントを示すことで、「公共」の学習内容の振り返りから無理なく「政治・経済」の学習へと導入できるようにした。(第1号) ・ 巻末には日本国憲法・大日本帝国憲法を掲載するとともに、「QR コンテンツ」(デジタルコンテンツ)で30の法令を取り上げ、学習に重要な法令を適宜参照しながら学習できるようにした。(第1号) ・ 巻末に「学習を深めるキーワード集」を掲載し、「政治・経済」の学習において特に複数の領域に関わるキーワードを取り上げ、関連するおもなページを示しながら学習を振り返ることで、各領域を密接に関連づけてとらえて学習できるようにした。(第1号) 	表紙裏 257～261 ページ 266～267 ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 造本上の工夫

- ・ A5 判と B5 判の中間にあたる特殊な判型（B5 変型判）を採用した。このことにより、本文ページに側注欄を設け、資料やコラム類の掲載点数を増やすとともに、学習を助ける多様な「問い」を掲載するなど、コンパクトかつ充実した紙面を実現した。
- ・ 生徒の負担に配慮し、軽量の紙を採用した。

(2) 特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮

- ・ 教科書全体を通してユニバーサルデザインフォント（UD フォント）を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすさを向上させた。
- ・ カラーユニバーサルデザイン（CUD）に配慮し、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフなどでは凡例をできるだけ使用せず図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を極力減らしたりした。
- ・ 「QR コンテンツ」として、教科書の本文を AI 音声で読み上げた「読み上げ音声」を用意し、視覚のみでなく聴覚でも教科書を活用した学習ができるようにした。

(3) 環境への配慮

- ・ 環境に配慮して、再生紙と植物油インキを使用するとともに、印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング認定工場」で印刷した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

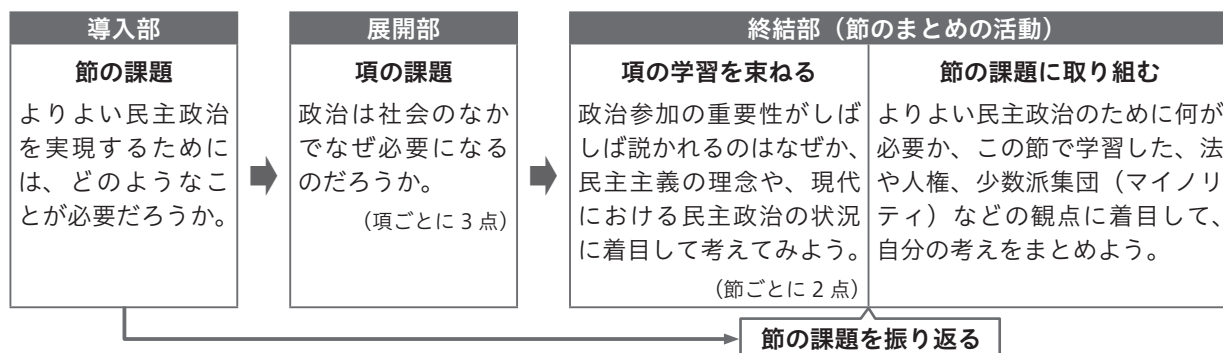
※受理番号	学校	教科	種目	学年
107 - 82	高等学校	公民科	政治・経済	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	政経 002-901	政治・経済		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

※以下のページ数は、教科書内でのページ数を示す。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「問い」の充実

- ① (課題・問いを軸にした学習の構造化) 各節の導入部には学習の見通しをもたせる「節の課題」を提示した。さらに、終結部の「節のまとめの活動」では複数の項の学習を束ねるための活動を示唆し、「節の課題を振り返ろう」と「節の課題に取り組もう」で具体的なまとめの活動を例示した。これらにより、節単位で学習を構造化し、主体的な学びを促すようにした。さらに、各項 (本文ページ) に、節の課題を具体化した三つの問い (項の課題) を掲載することで、問いを常に意識しながら各項の学習を進めることができるようにした。



▲節の学習の構造 (第1編1章1節の例)

- ② (思考・判断を促す問いの工夫) 節・項の問いには、主として知識・理解を問う「どのように」型の疑問に加え、思考・判断を促す「なぜ」型や、社会参加を促す「どうするか」型の疑問を適宜取り入れることで、思考・判断する力を高めることができるようにした。
- ③ (主体的・対話的な学びを促す「トピック」) 主体的・対話的な学びの場面として、現代的な諸課題を論題形式で取り上げる「トピック」を設け、考察や議論を促す❶の問いを付記した。また、「トピック」以外にも、❶の問いを側注欄に適宜掲載し、学習を深めることができるようにした。

トピック 男女間の賃金格差の背景には何があるか

先進国のなかで日本は男女間の賃金格差が大きいとされるが、その背景には何があるのだろうか。

一つは、雇用形態の違いである。男性には正規雇用者が多く、女性は非正規雇用者が多い。正規雇用の場合、賃金が55歳程度まで上昇し続けるのに対し、非正規雇用の場合、早い段階で賃金が上がらなくなるため、雇用形態による賃金格差は年齢とともに徐々に大きくなる傾向がある。

しかし、同じ正規雇用でも、年齢とともに男女の賃金格差は大きくなっていく。この背景には、女性が出産・育児期に就業を中断する傾向が強いことに加え、性別や年齢などの属性にもとづいて行われる統計的差別があるといわれる。たとえば、「女性は男性より結婚・出産を機に退職することが多いため、重要な仕事を任せられない」というような判断は、個人の能力や業績にもとづかず、属性をもとにした偏見であり、統計的差別といえる。女性の労働参加が進む一方で、不平等な取り扱いが残されたり、見えなくされたりしていないか、常に検討し、改善をはかっていく必要がある。

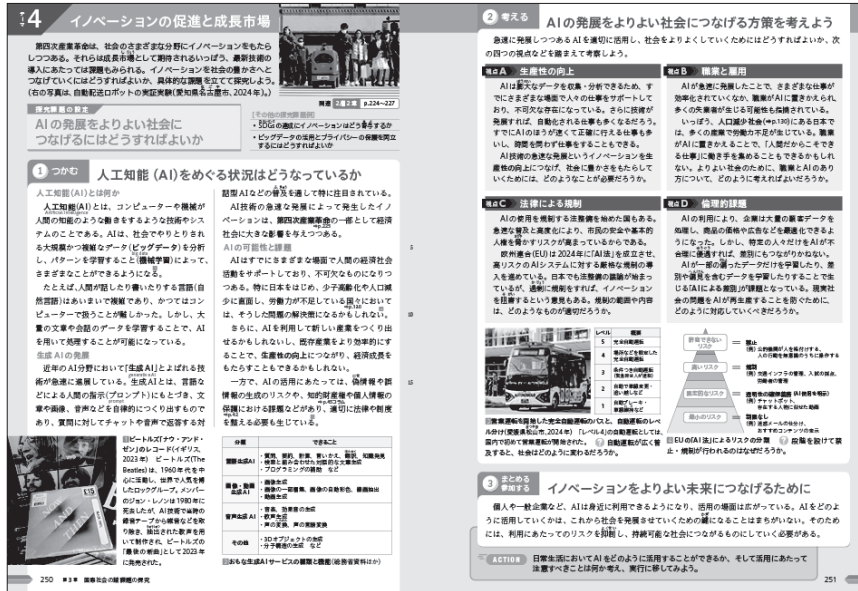
❶ 男女間の賃金格差の背景にあると考えられるものについてまとめてみよう。
 ② ①でまとめた内容をもとに、男女の賃金格差を解消するためにどうしたらよいか、話し合ってみよう。

▲「トピック」の例 (p.149)

- ④ (掲載資料の増加と資料活用を促す❷の問い) B5 変型判の判型を活かして、グラフや写真などの資料を約 650 点掲載するとともに、本文に図番号を付すことで本文と資料を関連づけて学習できるようにした。さらに、資料には適宜、読み取りや分析を促す❷の問いを付記し、読解のポイントを示したり、複数の資料を関連づけた読解・考察を促したりすることで、資料の効果的な活用を図ることができるようにした。

(2) 探究の流れと考察の視点がわかりやすい紙面構成

- ① **〔探究の流れの明示〕** 各編3章の「諸課題の探究」では、探究の流れを「探究課題の設定→つかむ→考える→まとめる・参加する」の4段階で明示し、探究の流れを意識して学習を展開できるようにするとともに、社会参加への意欲を高めることができるようにした。さらに、探究学習で必要とされる技能等をQRコンテンツ（デジタルコンテンツ）の「探究のスキル」で詳しく解説することで、探究学習を円滑に展開できるように工夫した。
- ② **〔「視点」の明示〕** 「諸課題の探究」では、「考える」の段階に四つの「視点」を明示することで、「見方・考え方」を意識した深い学びを実現できるようにした。また、上述の「節のまとめの活動」や②の問い・①の問いにおいても適宜、読解や考察の視点（観点）を明示した。



▲「諸課題の探究」の例 (p.250～251)

(3) 「18歳選挙権」や「18歳成年」に対応する内容の充実

- ① **〔18歳からの社会参加〕の拡充** 成年になり選挙権を得る年齢である「18歳」にクローズアップした特設ページである「18歳からの社会参加」を拡充し、成年年齢 (p.16～17)、選挙と政治参加 (p.82～83)、金融商品 (p.116～117)、消費者市民社会 (p.142～143)、労働 (p.150～151)、社会保障 (p.158～159)、身近な国際化 (p.240～241) の7テーマとした (下線を付した2テーマを新設)。「政治・経済」の学習をよりいっそう実生活へと活かすことができるようにページを刷新したほか、QRコンテンツ（デジタルコンテンツ）として追加の資料やWebサイトへのリンクを全テーマに設け、生徒が興味をもって学習に取り組むことができるようにした。



▲「18歳からの社会参加」の例 (p.150～151)

(4) 学びやすさに配慮した構成・配列

- ① **〔「公共」からの接続〕** 教科書の冒頭に「『公共』から『政治・経済』へ」を掲載し、「公共」の学習の振り返りを通じて円滑に「政治・経済」の学習へと導入できるようにした。また、各編1、2章の冒頭(p.6など)に、「公共」と「政治・経済」の学習内容のつながりを示す模式図を掲載し、「公共」での学習を意識しながら学習を展開できるようにした。
- ② **〔全体の構成〕** 学習指導要領を踏まえた2編構成とし、第1編ではおもに国内の事象を、第2編ではおもに国際的な事象を取り上げた。また、2編とも、第1章では「政治」、第2章では「経済」、第3章では「諸課題の探究」を取り上げるという共通の章構成を採用し、第1、2章での学習を踏まえて第3章の「諸課題の探究」を展開できるようにした。なお、こうした編・章の構成が視覚的にわかりやすいよう、各編・章ごとに異なる色のツメ(インデックス)をページ下部に設け、検索しやすくした。
- ③ **〔生活に関わる内容を扱う節の独立〕** 第1編2章5節(p.140～159)として「国民の生活と福祉の課題」を新設し、消費者問題・雇用と労働問題・社会保障と福祉の3項目を独立した節で扱う形とし、実生活へと活かしやすい内容をまとめて指導しやすくした。さらに、3項目それぞれに対応する「18歳からの社会参加」を設ける構成とし、内容の充実を図るとともに、生徒が自分事としてとらえやすくなるようにした。
- ④ **〔「この教科書の使い方」の新設〕** 巻頭のp.4～5に「この教科書の使い方」のページを新設し、教科書全体の構成や学習の進め方、❓の問い・❶の問いの趣旨や活用のしかたについて解説を加えたほか、QRコンテンツ(デジタルコンテンツ)の類型についても解説を加え、教科書を活用した学びを展開しやすくした。
- ⑤ **〔「学習を深めるキーワード集」の新設と索引の充実〕** 巻末のp.266～267に「学習を深めるキーワード集」のページを新設し、「政治・経済」の学習において複数の分野にまたがって扱われるキーワードの例を紹介することで、各分野での学習を結びつけてとらえ、さらに深めることができるようにした。また、p.268～272の索引には、複数ページを示す場合は重要度の高いページを赤字で示すことで学習しやすさに配慮したほか、掲載内容を改めて見直すとともに、語数も1496と25語増強し、参照性をよりいっそう高めた。

(5) 現代的な諸課題の扱いの充実

- ① **〔ジェンダーおよび性的マイノリティに関する内容の充実〕** 日本におけるジェンダー平等について政治・経済の両面からとらえることができるよう、第1編1章でコラム「選択的夫婦別姓」(p.35)およびトピック「議会における男女平等」(p.55)を、第1編2章でトピック「男女間の賃金格差」(p.149)を、また第1編3章の「諸課題の探究」の一つとして「性別にかかわらず働きやすい労働環境」(p.166～167)を取り上げた。また、性的マイノリティについての理解を図るために、第1編1章でコラム「性の多様性の尊重」(p.43)を掲載した。
- ② **〔多文化共生に関する内容の充実〕** 日本における在留外国人の増加と多文化共生について広い視野から考察できるように、コラム「外国人の人権」(p.36)やコラム「外国人住民の社会参加」(p.69)、本文「増加する外国人労働者」(p.148)、「国際人口移動の増加」(p.236)を設け、さらに、「18歳からの社会参加」のテーマとして「『国際社会』とかかわる」(p.240～241)を取り上げ、第2編3章の「諸課題の探究」の一つとして「多文化共生の実現」(p.244～245)を取り上げることで、身近な地域に落とし込んで考えることができるように工夫した。
- ③ **〔情報化・デジタル化に関する内容の充実〕** 世界で急速に進展しつつある情報化・デジタル化とその社会的影響について多面的・多角的に考察できるように、トピック「ネット社会における人権保障の課題にどう対応するか」(p.45)では個人情報の保護やSNSなどでの誹謗中傷の問題、コラム「インターネットと政治」(p.80)では偽情報・誤情報やエコーチェンバー、フィルターバブルなどの問題について新たに取り上げた。また、第2編2章2節には「世界経済のグローバル化と情報化」(p.224～227)の項を設け、GAFaなどのプラットフォーマーの活動やアテンション・エコノミーの課題などについて取り上げた。さらに第2編3章では「諸課題の探究」の探究課題の一つとして「人工知能(AI)」(p.250～251)を新たに取り上げることで、情報化・デジタル化と社会のあり方についてより具体的に探究できるようにした。

- ④ **〔最新の国際情勢の反映〕** 第2編1章の「冷戦後の国際関係と日本」(p.190～193)や、第2編3章の「民族問題と紛争の解決」(p.252～253)の記述を更新し、パレスチナ問題などについて増補したほか、第2編2章にはコラム「『ポスト・グローバル化』」(p.239)を新設し、第2編全体の学習を踏まえて、現代の国際社会が直面する課題について詳しく記述した。
- ⑤ **〔SDGs・持続可能な社会に関する内容の充実〕** レクチャー「持続可能な開発目標 (SDGs)」(p.238)を設けてSDGsの基礎を押さえることができるようにするとともに、第2編3章の「持続可能な社会の実現」(p.254～255)ではSDGsの達成に向けた取り組みや日本の達成度について取り上げ、持続可能な社会の形成に主体的に参加する態度を養うことができるように配慮した。

(6) 「個に応じた指導」への対応

- ① **〔メリハリのある紙面構成〕** 全国の先生方からのご意見や、大学入学共通テストの出題傾向などを踏まえて、習得すべき学習内容を網羅した。また、本文や注釈、コラム類を使い分けることでメリハリをもたせた紙面構成とし、さまざまな指導を行えるように配慮した。
- ② **〔丁寧な解説とデジタルコンテンツでつまづきを解消する「レクチャー」〕** 需要曲線と供給曲線、金利変化の影響、国際収支表といった生徒がつまづきやすい事項については、「レクチャー」のコーナーを設けて丁寧に解説するとともに、「QRコンテンツ」(6)③参照)としてスライド解説やクイズへとリンクさせることで、無理なく確実に習得できるように工夫した。

裁判員制度 (p.65)	物価変動と暮らし (p.108)	世界の紛争地図 (p.202～203)
日本の国政選挙のしくみ (p.75)	金利の変化と暮らし (p.111)	日本の領土をめぐる問題 (p.205)
需要曲線と供給曲線① 一価格の決定と曲線の移動 (p.101)	信用創造 (p.112)	比較生産費説 (p.210)
	少子高齢化と人口減少 (p.130)	外国為替 (p.211)
需要曲線と供給曲線② 一曲線の傾き (p.102)	国家の領域 (p.178)	円高と円安 (p.212)
	条約の締結過程 (p.180)	国際収支表 (p.214)
景気変動(景気循環) (p.107)	勢力均衡と集団安全保障 (p.182)	持続可能な開発目標 (SDGs) (p.238)

▲「レクチャー」一覧

- ③ **〔自学自習に活用できる「QRコンテンツ」〕** 項目の冒頭などに設置された二次元コード(計58箇所)などを通じて「QRコンテンツ」(デジタルコンテンツ)にアクセスできるようにした。また、「QRコンテンツ」が教科書の掲載内容と深く関連づいている箇所については、適宜「QR〇〇」アイコン(「QR映像」「QR解説」など)を配置し、よりいっそう「QRコンテンツ」を活用して学習を深めやすくなるようにした。

■映像(計25点) …学習内容と関連する映像資料 日本国憲法の制定/アメリカ軍基地と沖縄/国会とは/内閣とは/最高裁判所とは/民事裁判とは/刑事裁判とは/裁判員制度とは/日本の選挙制度/ マスメディアと世論/株式会社のしくみ/株式会社の誕生/債券のしくみ/ 日本銀行の役割/リスクとリターン/財政とは/長時間労働と過労死/ 社会保障制度とは/安全保障理事会とは/ウクライナ侵攻と難民/ODAとは/ 円高・円安とは/GATTとWTO/飢餓はなぜ起こるのか/フェアトレード	■デジタルワークシート(計23点) …「トピック」のコーナーに対応した、書き込み可能な思考ツールなど ■「思考問題セレクション」(計25題) …資料などを読み取って考える、大学入学共通テスト形式の演習問題 問題編と解答編で構成、各編1、2章の各節に用意
■ポイント解説(計29点) …「レクチャー」などに対応した解説・練習問題 「レクチャー」に対応した19点/三権の抑制と均衡/日本の裁判制度/ バランスシート/外部不経済の内部化/国民経済計算/金融政策/財政政策/ 労働基準法のおもな内容/為替レートの変動要因/国際金融のトリレンマ	■読み上げ音声(計60点) …教科書の本文をAI音声で読み上げたもの 節ごと・項ごとに用意、再生速度調整機能を搭載
■「18歳からの社会参加」デジタル資料(計7点) …特設ページ「18歳からの社会参加」に関連した資料や補足説明 すべての「18歳からの社会参加」に用意	■探究のスキル(計4点) …「諸課題の探究」などで活用できる、探究の流れやスキルについての資料
■デジタル法令集(計30法令) …教科書に登場するおもな法令の条文 日本国憲法(解説つき)/大日本帝国憲法(解説つき)/教育基本法/男女共同参画社会基本法/地方自治法/環境基本法/個人情報保護法/情報公開法/民法/刑法/刑事訴訟法/労働基準法/労働組合法/労働関係調整法/労働契約法/男女雇用機会均等法/障害者基本法/独占禁止法/消費者基本法/消費者契約法/部落差別解消推進法/アイヌ施策推進法/国際連合憲章/世界人権宣言/国際人権規約/人種差別撤廃条約/女子差別撤廃条約/子どもの権利条約/障害者権利条約/日米相互協力及び安全保障条約	

▲おもな「QRコンテンツ」の一覧

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
「公共」から「政治・経済」へ	A-(1)(2)、B-(1)(2)	表紙裏～1ページ	-
第1編 現代日本の政治と経済	A-(1)(2)	6～175ページ	49
第1章 現代日本の政治	A-(1) ア(ア)(ウ)、イ(ア)(イ)	6～83ページ	23
1節 民主政治の基本原則	A-(1) ア(ア)(ウ)	8～28ページ	
2節 日本国憲法の基本原則	A-(1) ア(ア)(ウ)、イ(ア)	29～51ページ	
3節 日本の政治機構	A-(1) ア(ア)(ウ)、イ(ア)	52～69ページ	
4節 現代政治の特質と課題	A-(1) ア(ア)(ウ)、イ(イ)	70～83ページ	
第2章 現代日本の経済	A-(1) ア(イ)(ウ)、イ(ウ)(I)	84～159ページ	23
1節 現代の資本主義経済	A-(1) ア(イ)(ウ)	86～93ページ	
2節 現代経済のしくみ	A-(1) ア(イ)(ウ)、イ(I)	94～122ページ	
3節 日本経済の発展と現状	A-(1) ア(イ)(ウ)	123～131ページ	
4節 経済活動と産業の課題	A-(1) ア(イ)(ウ)、イ(ウ)	132～139ページ	
5節 国民の生活と福祉の課題	A-(1) ア(イ)(ウ)、イ(ウ)	140～159ページ	
第3章 現代日本の諸課題の探究	A-(2)	160～175ページ	3
第2編 グローバル化する国際社会	B-(1)(2)	176～255ページ	21
第1章 現代の国際政治	B-(1) ア(ア)(ウ)、イ(ア)(イ)	176～207ページ	9
1節 国際政治のしくみ	B-(1) ア(ア)(ウ)、イ(ア)	178～185ページ	
2節 複雑化する国際政治と日本	B-(1) ア(ア)(ウ)、イ(ア)(イ)	186～207ページ	
第2章 現代の国際経済	B-(1) ア(イ)(ウ)、イ(ウ)(I)	208～241ページ	9
1節 国民経済と国際経済	B-(1) ア(イ)(ウ)、イ(ウ)(I)	210～223ページ	
2節 世界経済の現状と課題	B-(1) ア(イ)(ウ)、イ(ウ)(I)	224～241ページ	
第3章 国際社会の諸課題の探究	B-(2)	242～255ページ	3
参考資料	A-(1)(2)、B-(1)(2)	256～267ページ	-
		計	70